二〇二一年度国文学会彙報

二〇二一年度国文学会活動状況

〈国文学会総会〉

・総会　二〇二一年五月三一日～六月五日に行われた常任委員会によるメールでの審議において審議事項が承認され、その決議をもって総会の決議とした。

〈国文学会春季研究発表会・講演会〉

二〇二一年六月二〇日（日）Zoom によるオンライン会場

・研究発表

『小夜衣』における「はればれし」とその機能

本学大学院文学研究科博士課程前期課程　釜丸　祥

教育の質的向上に係る国語教員の専門性

青森県立中里高等学校教諭　岩崎彩香

和語・漢語・外来語の語感を生かした俳句創作の単元構成（中学3年）

滋賀大学教育学部附属中学校教諭　永田郁子

・講演　同志社大学文化学会共催

「研究史を捉え直す」ということ

――『平家物語』法然義論争を巡って　本学教授　源健一郎

〈国文学会秋季研究発表会〉

二〇二一年一二月五日（日）Zoom によるオンライン会場

・研究発表

横光利一「時間」論――「機械」からの転換と試み――

本学大学院文学研究科博士課程前期課程　中村梨恵子

読点を意識化するための指導

関西大学第一高等学校教諭　松本匡由

ＩＣＴ機器を利用した国語授業

――国語総合「羅生門」より「羅生門裁判をしよう」――

奈良県立二階堂高等学校教諭　後藤　絢

〈ゼミ相談会〉　学生部会主催

二〇二一年一一月二五日（木）、一二月二日（木）

良心館二〇七教室

〈国文遊歩〉　学生部会主催

二〇二一年一二月一九日（日）

〈研究発表会〉　院生部会主催

二〇二二年三月八日（火）、三月一五日（火）

良心館二〇六教室

〈同志社国文学〉

第九五号　二〇二一年一二月二〇日発行

収載論文四編、資料紹介一編、実践報告二編

第九六号　二〇二二年三月二〇日発行

収載論文五編、資料紹介五編

〈国文学会会報〉

第四九号　二〇二二年三月二〇日発行

※新型コロナウイルスへの対応のため、例年行われている院生部会主催の講演会は中止、国文合宿は研究発表会として実施、学生部会主催の新入生歓迎会は中止、国文遊歩は一回のみの実施。

二〇二一年度修士論文題目

「藍紙本万葉集」の性格
——巻第九残巻を中心に——　湯本美紀

古典文学における猫の夢の特徴について　小林芙美

有島武郎の童話論
——「一房の葡萄」・「溺れかけた兄妹」——　芦野陽子

横光利一『夜の靴』論
——語り手「私」の位相と作品の構成について——　中村梨恵子

澁澤龍彦と「ニヒリズムの病理学」　後藤大介

遠藤周作『沈黙』にみる翻訳・映画アダプテーション の可能性と限界　山根圭乃子

二〇二一年度卒業論文題目

古事記神話の櫛について　岡野真依

ミソギとハラへについて
——上代文学作品を通して考える二つの儀式——　村井紗代

上代における「浦島伝説」と神仙小説とのかかわり
——話型分析を通して——　倉田真緒

『万葉集』における「植物の香りを詠む歌」と その特徴について　板井佑依奈

万葉集の「鹿鳴」と「鹿」訓について　森野智子

『竹取物語』における中秋の名月について　浜本裕

『落窪物語』および『うつほ物語』における飲食表現の効果　木戸口瑠華

『落窪物語』における落窪の君の人物造型と位置づけ　武内真由

「源氏物語」の英訳における桐壺更衣の表現の違い　王　博
朧月夜の人物像と存在意義　小谷杏美
『源氏物語』における源典侍と光源氏の関係
——好色な老女が登場する他の物語と比較して——　小倉　彩
『源氏物語』において近江の君が担う役割　小林拓成
『源氏物語』における柏木の役割
——光源氏による密通との比較から——　守　賢大
『源氏物語』における紫の上の死の表現　山田玲菜
薫の声と「あて」について　上嶋由莉
『源氏物語』における「うつくし」の対象
——形容詞と形容動詞を中心に——　吉田茉以
絵日記の表現方法
——『源氏物語』と『狭衣物語』の比較から——　伊藤真利那
『大斎院前の御集』の「枕虫」について　田中　樹
源俊頼の月雲詠
——詠法の分類と独自性——　岩﨑春乃
御子左家歌壇の鶉詠における藤原俊成「夕されば」歌享受　新垣彩香
『今昔物語集』巻二十における天狗説話の意義　都築彩花
天智天皇歌「秋の田の」
——その詠歌時期を踏まえて——　泉　祐衣
八代集恋歌に詠まれる「葦」の考察
——伊勢歌再解釈をめざして——　野村美有
『とりかへばや物語』における「とりかへ」の効果　金藤伸太郎
浦島説話から読みとく『古事談』
——話型と配列——　奥野　瞳
『十訓抄』第四における撰者の意図をさぐる　有田知広
『大江山絵詞』における酒呑童子の空間と両義性　小林咲輝
中世紀行文学における雨の描写とその効果　白石　歩
『伊勢物語』二三段「筒井筒」と能「井筒」の比較　中村日向子
『草根集』中の紅涙歌について　三宅春佳

『鉢かづき』論
——「鉢」と「天女譚」から見て——　飯塚美咲

『鉢かづき』御巫本の性格
——山蔭中納言説話からの視点——　兵部和嗣

御伽草子『瓜姫物語』における物語的設定について
——昔話「瓜子姫」との比較を通して——　伊藤康乃

後水尾院の和歌の特徴について　門田華音

『不白翁句集』からみる不白の茶の湯句　川上智大

『一谷嫩軍記』に見る平忠度　伊藤楓

江戸小咄における中国笑話の翻案方法　川上聡太

『けいせい恋飛脚』及び『恋飛脚大和往来』の改作としての在り方
——登場人物の比較を通して——　稲田香保

南北作品に見る夏狂言の魅力とは
——涼を感じる演出について——　西井萌栞

『背振翁伝』における秋成の意図　西田沙愛

書簡とその歌から見る蓮月歌の再考　森下穂乃花

春画・艶本におけるパロディの方法
——『当開道夜通家快談』を中心に——　遠藤杏

江戸時代における『偐紫田舎源氏』の享受の形の考察
——絵双六を用いて——　島津大和

歌舞伎における狐の様相　西川実那

歌舞伎変革期における女形の在り方
——演劇改良運動を背景に——　斎藤真央

夏目漱石の表現する「死」という概念　河合慎平

「黒猫」のお島はどんな人物か
——鏡花の人物像に照らして——　酒向早紀

有島武郎『惜みなく愛は奪ふ』における「本能的生活」の意味　伊藤貴真

志賀直哉「児を盗む話」における主人公のナルシシズム　三島まな美

堕落から見る「刺青」　古角彩

谷崎潤一郎「魔術師」論
——近代都市の「魔法」とオリエンタリズムを中心に——　刘議蔓

谷崎潤一郎『鍵』における性表現
——猥褻と文学——　久保田瑛南

「魔術」から見る芥川龍之介の作品観　三浦玲奈

アナトール・フランスから見た芥川龍之介『河童』　伊津渚
朔太郎詩における光と金属と宗教性　三浦史織
夢野久作「瓶詰地獄」
——瓶を開けて広がる地獄——　高野光咲
『死後の恋』論
——虚構性とリアリティの観点から——　田中怜衣
夢野久作『少女地獄』論
——「少女」と「地獄」の関係性——　石井良樹
江戸川乱歩『孤島の鬼』における同性愛　河野万葉
吉屋信子『花物語』における女性同性愛表象　神戸啓多
井伏鱒二「山椒魚」論
——揺れる「山椒魚」をめぐって——　徳姫佳
横光利一「春は馬車に乗って」
——新感覚派的表現としての「新鮮な解釈」とは——　姜岐儁
横光利一「機械」論
——横光の「格闘」と人間社会観——　松尾佳奈

極上文學『Kの昇天～或はKの溺死～』についての考察
——原作小説との差異からみる朗読劇の魅力——　笠松芽生
梶井基次郎『器楽的幻覚』論
——「幻覚」の発現要因についての考察——　組橋茅夏
横溝正史『蔵の中』における入れ子構造について　帆足日菜待
堀辰雄『聖家族』論
——描かれる「生」と「家族」——　北浦依織
堀辰雄『風立ちぬ』におけるロマンチシズム
——自省と追憶の過程を辿って——　小島菜緒
戦時期における『キング』のイデオロギー的側面と
掲載小説について　田中荘太朗
「ダス・ゲマイネ」論
——太宰治のイミテーション——　樋口樹里
太宰治『正義と微笑』論
——主人公の人物像と聖書の影響を中心に——　坂本明玖美

太宰治『お伽草紙』「舌切雀」における「弱者」と「世間」
——お爺さんの出世とお婆さんの死から——　高松　哲

太宰治『パンドラの匣』における「新しい男」たちの生き方　河野百花

太宰治「ヴィヨンの妻」考
——太宰治と大谷、或いは「私」と美知子夫人——　大島明奈

織田作之助「俗臭」論
——改稿版「俗臭」における児子権右衛門——　石原梨歩

松本清張「断碑」「石の骨」から見る学歴コンプレックス　新井晴登

田村泰次郎「肉体の門」
——原作と続編から見える肉体文学の意義と問題性——　村上晴香

安部公房『砂の女』論
——社会の流動と希望——　西村拓人

「わが友ヒットラー」論
——二〇世紀ドイツの歯車——　木村美月

澁澤龍彦「ねむり姫」論
——澁澤小説のスタイルと物語の「新しい領域」——　溝端環太郎

筒井康隆に見る喫煙観と虚構性
——『最後の喫煙者』を中心に——　尾崎航志

『納屋を焼く』論
——自分の中の焼き払うべきもの——　伊藤里恵

村上春樹『ノルウェイの森』論
——「恋愛障害」から繋がる「死」と「生」——　ナム　エヴァ

村上春樹『アフターダーク』論
——近代的暴力への抵抗と現代人の使命——　中村　耀

梨木香歩『裏庭』論
——家庭環境の変遷から考える異界の在り方　中尾留梨子

目取真俊「マーの見た空」論
——沖縄文化と差別の象徴「マー」——　谷川清健

『夜のピクニック』における人生行路
——「死」と「生」・「ノスタルジー」という観点で読む——　木村應江
ピアノの調律から見えてくるもの
——『羊と鋼の森』の背景より——　御前友美
伊坂幸太郎『死神の精度』に見る死神の異化効果について　田中あみ
道尾秀介『向日葵の咲かない夏』考察
——《物語》と〈物語〉による「救い」——　亀岡綾乃
綿矢りさ『蹴りたい背中』論　菊池美奈
近代小説にみられる「あて字」の特徴について　野曽原拓未
漫画における棒線符号について　谷口明日香
文法機能、意味、表記からみた「おもわく」の語史　谷口悠
「すべて」の意味と表記の変遷について　増田薫子
大蔵流狂言台本における妻の呼称について
——語用論の観点から——　藤村香奈
「腹」を用いた笑いの表現の変遷　梅岡陽菜
味覚形容詞の意味拡張について　田頭健太郎
類義語〈気持ち〉と〈気分〉の使い分け　小山日菜子
「～感」表現の意味・用法と前接要素の考察　山上将大
新語・流行語の流行の仕方
——ピークによる傾向の分析——　米山そよぎ
若者言葉「普通に」の意味・用法
——20代前半の女性における用例をもとに——　原田真菜
鈴木三重吉童話のオノマトペの語彙と用法　梶田恭吾
絵本におけるオノマトペについて　肥塚夕季菜
反実仮想と作者の意図
——古今和歌集より——　森田光騎
近世初期における格助詞「ガ」の発達と無助詞主格標示の存続
——近松浄瑠璃を資料として——　塚本遼
遊女ことばの終助詞の用法
——江戸・大阪・京都の比較——　松田紗綾
近代日本における断定表現「です」の使用
——明治大正期の小説の会話文を中心に——　深津英峻
文末表現「クナイ」について　平田みゆき

「～になります」の文法的性質
——敬語表現と構文を中心に——　松田有理沙
漫画における新敬語「っす」の用法について
——漫画『ワールドトリガー』を中心に——　岩田蓮
新聞投書の文体にみられる性差の変遷と要因　杉山奈緒子
昭和時代の詩と歌詞の文体的比較　岸本舞
村上春樹作品における比喩表現　曽我部克
洋画の日本語吹替と日本語字幕の比較　石原天海
江戸落語の噺家のことばづかい
——『笑点』大喜利出演者の実態調査から——　寺西歩実
年代別に見た絵本の言語的特徴　菊池佑子
雑誌広告におけるキャッチフレーズの表現差
——対象年齢別・性別の比較から——　濱子真衣
SNSコミュニケーションの文体
——言文一致の観点から——　千田人温
サカナクション山口一郎の歌詞における語彙と表現の研究　山田篤貴
日本語ラップにおける韻の基礎的研究
——Creepy Nutsの作品を中心に——　山田岳
ハル敬語の使用から見る成立過程
——形態分析を用いて——　板井翼
京ことばの名詞「お」「さん」の特殊性と使用の現状　渋谷優作
大阪方言「ヤル」における使用条件と使用状況　千坂希
大阪方言における否定辞「ヤン」について　髙木絵菜
岡山県岡山市方言のアスペクト形式「シトル」
「ショル」「ショール」「ショール」の使用
——日本語アスペクトにおける方言的特徴——　天野響
現代の私たちが創り出す「京都らしさ」の言語実態について
——2014年以降のライトノベルを資料として——　岡本珠希
児童図書・ティーン向け書籍におけるヴァーチャル
方言の出現傾向について　浜田美月